

有機フッ素化合物が検出された地下水の継続調査について（令和7年度）

1 継続調査結果

令和2年度以降における調査結果については下表のとおり（指針値 50ng/L）。

(ng/L)

地点	PFOS	PFOA	合計 ^{※2}
令和2年度（環境省調査 ^{※1} ）	120	670	790
令和3年度	43	97	140
令和4年度	25	54	79
令和5年度（R5. 6採水）	12	92	100
令和5年度（R5. 11採水）	21	55	76
令和6年度（R6. 6採水）	16	50	66
令和6年度（R6. 11採水）	12	43	55
令和7年度（R7. 6採水）	9	61	70
令和7年度（R7. 11採水）	19	75	94

※1：全国存在状況把握調査

※2：調査結果は有効桁数2桁で処理した値を掲載しているため、「PFOS+PFOA」の値は必ずしも「PFOS」及び「PFOA」の結果の合算値とは一致しない。

【参考】

1 継続調査地点選定の経緯

- 平成26年3月：有機フッ素化合物のうちペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びその塩、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）及びその塩が、公共用水域の要調査項目として設定
- 令和元・2年度：環境省が全国存在状況把握調査を実施。令和2年度の調査地点である当該地点において、指針値（暫定）(50ng/L)の超過が判明
「PFOS 及び PFOA に関する対応の手引き」(R2年6月環境省水・大気環境局)に基づき濃度の経年的な推移把握のため、継続調査を実施することとした

2 全国存在状況把握調査結果【環境省実施】

- 実施年度：令和元年度及び令和2年度
- 調査地点：排出源となり得る施設付近の公共用水域及び地下水 各1地点
- 結果：

(ng/L)

	令和2年度				令和元年度			
	地点	PFOS	PFOA	合計	地点	PFOS	PFOA	合計
河川	砂押川(多賀城市)	1.5	1.7	3.2	白石川(柴田町)	0.3	0.6	0.9
地下水	名取市	120	670	790	岩沼市	1.1	2.4	3.5

3 当該井戸の状況確認等（実施時期：令和3年度）

- 井戸の状況
 - 飲用利用なし
 - 半径500mに飲用井戸がなく、上水道敷設済であることを確認
 - 深度3~4mの浅井戸
 - ヒトへの健康影響について蓋然性は著しく低いと考えられる
- 対応内容
 - 井戸所有者に対するPFOS及びPFOAの特性の説明、使用状況の確認、飲用を控えるよう再度助言等を実施
 - 名取市役所へ情報提供